

大学名：信州大学教育学部

ASPUnevNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します(加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	・ 相談事例がなかった。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	・ 相談事例がなかった。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	・ 山ノ内南小学校, 西小学校など管内ユネスコスクールにおいて, 依頼元学校との共催, もしくは学校主催により ESD/SDGs 研修会を 3 回実施した。 ・ 山ノ内町教育委員会主催の ESD 教員研修で講師を務めたほか, 小・中学校 ESD 担当者会議にオブザーバーとして参加した。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	・ 志賀高原ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の推進について, 管内の全小学校の 5 年生を対象に, ユネスコエコパークについて学ぶ学習会を実施した。また信州大学附属松本中学校の高原学習をモデルに, 事前学習プログラムの改訂や, ガイド向け ESD/SDGs 研修会の実施などの支援を行った。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	・ 山ノ内南小学校, 西小学校など管内ユネスコスクールにおいて, 依頼元学校との共催, もしくは学校主催により ESD/SDGs 研修会を 3 回実施した。【再掲】
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	・ 信州 ESD コンソーシアム「成果発表&交流会」で発表された実践事例を検索・閲覧できる Web サイトを開発・公開した。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	・ 長野市教育センターが主催する ESD やユネスコスクールに関連する研修会で講師を務めた。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	・ コンソーシアム加盟校からの ESD/SDGs 実践についての相談に適宜応じて, 行政機関や NPO 等, 教育実践の支援が得られる関係先を紹介した。

	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 山ノ内町教育委員会主催の ESD 教員研修で講師を務めたほか、小・中学校 ESD 担当者会議にオブザーバーとして参加した。【再掲】
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進について、当該地域の ESD コンソーシアム、ASPUUnivnet 加盟校と連携しながら、各ユネスコエコパーク協議会事務局への働きかけや支援を行った。 EPO 中部が主催したジオパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進をテーマとした ESD ダイアログ（長野県伊那市）の企画、実施に協力した。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 信州 ESD コンソーシアム「成果発表&交流会」において、長野県内だけでなく、全国のユネスコエコパークで学ぶユネスコスクール等が参加する、全国規模の交流機会を創出した。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	<ul style="list-style-type: none"> 信州 ESD コンソーシアム「成果発表&交流会」において「国際枠」を設けた。国内から 4 つの学校が、英語、もしくは逐次通訳を交えて発表し、カンボジアの学校やアメリカからの視聴者と交流した。 令和 4 年度「成果発表&交流会」の成果発表を英語化して、ウェブサイトで公開した。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部および信州 ESD コンソーシアムの ESD 推進等の活動は、本学第 4 期中期目標・中期計画（令和 4 年～令和 9 年）等に明確に位置づけられている。 2022 年に新設された信州大学グリーン社会共創機構との連携を進めている。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 学部では「環境教育」、「総合的な学習の時間の指導法」など複数の授業でユネスコスクールや ESD を取り扱っている。教育学部必修授業科目も含まれていることから、本学教育学部ではすべての学生がユネスコスクールや ESD について学ぶ機会が設定されている。 教職大学院では「持続可能な社会づくりと教育」において、ユネスコスクールでの ESD 研修にオンライン参加し、現職教員と意見交換する機会を設けている。 このほかにも学部・大学院の複数の授業科目で、信州 ESD コンソーシアム「成果発表&交流会」で発表された実践事例を活用している。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度「成果発表&交流会」の報告が、ESD 研究（6:48-51）に掲載された。
	④ その他	特になし

6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進について、当該地域の ESD コンソーシアム、ASPUnivnet 加盟校と連携しながら、各ユネスコエコパーク協議会事務局への働きかけや支援を行った。【再掲】
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ASPUnivNet 共同研究「ユネスコスクールの教職員の動機付けを高める要因に関する実証研究」に参加し、その中間成果を第 15 回ユネスコスクール全国大会（2024/1/20，東京）の分科会「ユネスコスクールを動かす教職員とは？－活気のある学校づくりの秘訣」で発信した。 学校での ESD 教職員研修について、指導者として ASPUnivNet 加盟校の教員を招聘したり、紹介したりした。
	③ その他	特になし